

## 巻頭言

# ゾロアスター教遺跡の可能性

会長 渡辺豊和

一月三一、二月一日の岡山県内、とくに備中地方を重点的にめぐるイワクラツアーで、中核となった佐藤光範（敬称略）の着眼は注目しに値した。

「ハタ」なる地名にあるイワクラが多いのだからこのイワクラ信仰の主催氏族は秦氏だといっているのである。実は私も似たことを感じていたことがある。

奈良県山添村波多横山にある神波多神社周辺に広がるイワクラ群も秦氏がつくった気配が濃厚だから

らだ。ここは柳原が鍋倉天の河説を打ち立てたところなのだが、山添村だけではなく、もっと北の笠置山までの目立つ巨石を調べ、その分布様態をみると、私が主張しているゾロアスター教の聖方向が浮かびあがってくるのだった。ゾロアスター教はBC五〇〇年頃に最盛期を迎えていた古代ペルシア、アケメネス朝の国教だが聖都市、ペルセポリスの主軸が真北から二〇度西に傾いている、この方向が聖方向なのだ。ペルセポリスには西から北に折れ、入り口は北で南が深奥である。

聖方向が真北から二〇度西に傾くということは真南から東に二〇度傾いていることでもある。この方向はBC五〇〇年頃、冬至の真夜中、午前〇時にシリウスが南天に一つ王者の如く燦然と輝いている方向だったのである。事実ゾロアスター教では主神で、太陽神、アフラ・マズダの次に崇められていたのがシリウスのテシュトリア神だった。ゾロアスター神殿は一〇メートル立方ほどの石造建築だが、これも入り口は北で主軸は聖方向なのだ。

ところが日本でも鹿島神宮が西から北に折れ、入り口が北で主軸が聖方向、ペルセポリスとまったく同じ空間構成なのだ。

奈良盆地中央を走る太子道も正確な聖方向だ。太子道は斑鳩から飛鳥まで聖徳太子が通った道と伝えられているものだ。それだけではない。斑鳩宮の街路構成の主軸も聖方向だ。歴史地理学者千田稔

からその理由を調べてほしいと言われ判ったのがこの聖方向だったのである。

また飛鳥自体がこの聖方向を強く意識して都市計画された都だったこともわかってきた。ただし考古学者は誰一人としてそんなことには関心がない。日本にゾロアスター教が伝えられていたなど考えてみたことすらなかったのだ。飛鳥とゾロアスター教といえば松本清張の『火の回路』が有名だが、ただ彼は晩年に自説をぐらつかせてしまったのは残念だった。建築家でないと解釈できないことに踏み込んだせいだ。でも松本のおかげで私が聖方向発見へと至ったのだから大いに感謝しているし、彼とは対談もしている。晩年ではあったが元気だったし面白かった。秦氏とイワクラだが、秦氏の渡来はどんなに古くみても、せいぜい五世紀前半までだ。ただし朝鮮からではない。中央アジアに巨大

王国を樹立した大月氏が秦氏である可能性が高い。私の発見に共鳴してくれて中央アジアに現地調査にいつている栗本慎一郎は確言してはいないがほぼそんな問題提起をしている。栗本は聖方向はゾロアスター教と特定はできず、むしろミトラ教のものではないかと指摘している。というのもゾロアスター教と直接関わらない遺跡にもこの聖方向が盛んに使われているからだ。

私もBC一五〇〇年代のエジプト新王国時代の有名な王、アケナトンの都の軸がこの聖方向を示していることに気づいている。BC五〇〇年には聖方向はシリウスと関係付けられたのは間違いないが、それより一〇〇〇年以前にこの方向が重視されていたのだし、しかもアケナトンは太陽神を唯一神とした宗教を信じていたから、聖方向はやはりミトラ信仰が発生源かもしれない。これは今後

の研究課題ではある。

秦氏が巨石を聖方向に関連づけて配列していったとしても五世紀前半以降だ。彼らはすでにあったイワクラのうちでも特に目立ち重視されていたものを起点に、それから聖方向に沿って新しい巨石を配列していったということは充分考えられる。

飛鳥をつくり、その飛鳥で王権を確立したのは蘇我氏である。その蘇我氏と大陸で合体し、北海道か北東北に渡来してきたのが秦氏と安倍氏だ。蘇我は王、安倍は水軍、秦は冶金、機織、土木建築、殖産興業、さらに地方官僚として威を振るった。それと忘れてはならないのはゾロアスター教の祭祀を司ったことだ。秦氏はゾロアスター教の祭祀氏族なのだ。ゾロアスター教はそのまま日本に定着しなかった。修験道に姿を変えたのが主、次に天武天皇がゾロアスター教を禁じたため、秦氏に

主力はキリスト教の一派、ネストリウス教に改宗した。

ヨーロッパの絵画で十字架にかけられたキリストの画像に「INRI」と書き込まれている例をよくみかける。「ユダヤ人の王ナザレのイエス」というラテン語の頭文字をとったものだ。日本人の豪族の柩にこのINRIが刻まれていた。上野国（群馬県）多胡郡の羊大夫の墓だ。羊大夫は奈良時代初期の人で秦氏だった可能性が高いといわれている。

このINRI（インリ）がイナリとなり稲荷神社となった。稲荷神社は今も商売の神だがこれは江戸時代以降のことで、そのもとはキリスト教だったのである。また稲荷神社は秦氏がつくり祀っている。秦氏はこうしてゾロアスター教からキリスト教へと転向していた。ゾロアスター教の方はまず東北山形県の出羽三山の修験道として姿を変えていった。出羽三山

の開祖は聖徳太子の従兄弟蜂子皇子だが、聖徳太子も蜂子皇子も蘇我氏の血が濃く流れている。まずは蘇我氏といっている。

出羽三山の一つ、月山神社から北の聖方向に正確に猿田彦神社が位置するが、猿田彦神社は秦氏と関わり、薩摩半島にもそっくりの図式をみせる猿田彦神社がある。これを祀るのも秦氏だ。いずれにしてもイワクラとゾロアスター教は深い関係があるのはまず間違いない。谷口美智代の発見した北斗七星も秦氏と関わるものではないか。

了